

初めまして、発達障害理学博士アーティストの愛月神夜音まなづきかやねといいます。物理学とエクストリームな音楽表現をこよなく偏愛する、人生の全時間が自己の存在証明というタイプの人間です。この本は、発達障害者が、自己がこの星に存在した意味を証明するにはどうしたらよいか、「最低限度をはるかに超えた文化的な生活」を送るためにどうしたらよいか、そこにもっとも効率的にたどり着くための考え方のヒントを記した本になります。

また、もう一つの目的は理学博士が書くことにより、並行して存在するもう一つの宇宙にはどれだけの可能性があるかを考えてもらうことです。

私は1979年生まれで、世のASDの中では、もう大御所の年齢です。私は発達障害者にしては珍しいぐらい、大局的に見て人生の要所を抑える人生を送っています。常に筋のいい失敗とそのリベンジの繰り返しで、最終学歴が博士後期課程修了というところまできました。また大学院時代には、知る人ぞ知るそこそこ有名になったインディペンデント系のラウドロックバンドもやっていました。いろいろな企業のお金持ちが、「大学」は必要ない、と言っていますが、そっちは発達障害にとっては逆にハードな道になっている、と思います。我々のような人種は、人生を夢をかなえる時間と考えるのはハードモードになります。では、我々は人生をどうとらえればよいのか、それは人生を自分の存在した意味を証明する時間、と考えればいい、ということになります。この本を読み進めると、一つの時空間での失敗を、次の時空間で私が同じことを繰り返さないことによって、螺旋を

描きながら、自分の人生に生きた意味を与えていることがわかる、ということになっていくと気づくはず。この発達障害者の独特の螺旋は定型発達者が向上していくときの上向きの upward spiral でも、定型発達者が墮落していくときの downward spiral でもありません。この宇宙で、発達障害者自身が宇宙にたった一つしかない $(1/\infty)$ の天上天下唯我独尊の人生を編み込むときに生まれる、neutral spiral です。

私が労力と時間をさんざんかけてこの本を書いても、「カーナビの音声と同じぐらい退屈な本だ」と感じる人は多いでしょう。ただし、はまる人には確実にはまるはず。我々は決して覆らない結果をもってして初めて自己の存在意義を肯定できる、という人種なのです。なので、人生を漠然と生きても、楽しくはありません。そうしたら、長い人生をどう生きたらよいか。それは「自己の価値を証明することが楽しい」というふうに考えたらよいのです。これをするために一番適しているのが学問と芸術と哲学です。私の人生の絵にかいたような紆余曲折を一緒に見ていくことで、発達障害とは何か、知能と言語が高いレベルで操れても、なぜ「現実がよくならない」などということが起こりうるのかを理解できると思います。そして、発達障害者は自分の高い知能と高い言語発達を「現実継続するのが一番難しい」という点を理解したうえで、人生戦略を周囲の人と協調して立てれば、「普通の人」以上に意味のある人生を作り上げることができるという様子を、私の自

叙伝という形をとりながら見ていきましよう。また、もしこの宇宙と並行して別の宇宙が隣接するならば何が面白いのかと、想像力の翼を広げてみましよう。世代の違う方が読まれると若干冗長に感じられる部分を含みますが、発達障害者が幸福に生きるためのヒントはたくさんちりばめられているはずですよ。生粋の東京人（100年以上の東京の血脈）の私のお話には落ちは少ないですよ。

では見ていきましよう。